

コロナが唯一くれたもの

鶴田町立鶴田中学校

三年

蒔苗

一彩

今年二〇二〇年、急速に感染が拡大した新型
 コロナウイルス。沢山の人が感染し、有名
 人の訃報などが世の中を騒がせました。こ
 れらが原因で危機感を覚えたり卒業式や甲子
 園など大きなイベントが中止になりたりと私
 達から様々なものを奪っていきましました。
 僕はコロナウイルスの影響でできた臨時休
 校の期間、渡された宿題が終り退屈な日々

を過ごしていました。

そんな時、何気なく見ていたテレビではユ

ロノウイルスの対策方法が紹介されていまし

た。ソーシャルディスタンスやマスク、三十

秒手洗いなど新しい生活様式の話題です。そ

れを知って面倒だなと思っただ僕。皆さんもそ

う思っただのではなないでしょうか。

ある日、家から食料が無くなり買い物に出

かけた時です。レジの前の床にはソーシャル

ディスタンスをうながす足のマーキング、マス

かないと入店できない店、手指の消毒など町
では新しい生活様式が取り入れられていまし
た。強い違和感をおぼえた記憶があります。
しかし、教カ月経過した今、新しい生活様
式は定着し、今まびあつた違和感はいつの間
にか感じなくなりました。マスクも手指の消
毒も見かけると人の達のほとん心かしています。
僕達は今の課題である感染拡大を防止する
ために新しい生活様式を強いられました。今
の課題を克服し次のステップへ進化するため

に違和感を覚えつつ疑問をもつて行動する必
要があります。これは普段の生活でも共通す
ると思います。
自分の課題を克服する時も何かを大きく変
えなければなりません。その時、必ず違和感
をおぼえ、苦しむことがあると思います。し
かし、その苦しみを乗り越えることで今より
ももっと良い自分になれると考えています。
私は様々な物を奪われたコロナから唯一得
たこの考えを尊重し成長していきたいです。